

## 笛のきれいな神様（小倉の民話）

村の中ほどに若宮さんがあり、ここの神様は笛がきれいだである。村祭りの祭礼に振りもん（太刀振り）と踊り（田楽の類）は奉納するが、笛の入る祭囃子はあげないことになっている。

村の奥の一番高い山をマサコ（真迫）と呼び、別名を城ヶ尾ともいう。頂上は広くはないが平坦で、昔の城跡だと伝えられている。この城がぐりから敵に囲まれたことがあった。だが、切り立ったような急な山なので、何日攻めても落城しそうもなく、敵は最後の手段として夜討ちをすることになった。

中ほどまでは攻めたが、それ以上は真暗でもあり、どう攻め登ってよいのか見当もつかない。すると上の方からかすかに笛の音のようなものが聞こえて来た。その音を頼りに静かに登って行くと、それは紛れもない笛の音だった。城中の姫が吹くのであろうか。この笛の音によって寄せ手は四方から城塞にたどり着き、一斉に攻め込んだ。もとより小さな山城のことで、不意を突かれて防ぎようもならず落城した。

城主、奥方、子女達は家来に守られ、ようやく血路を開いて尾根伝いに隣村近くのもとにたどり着いた。しかし、敵に囲まれ多勢に無勢、ついにあえなく最期を遂げた。この地が小字千原である。

非業の死を遂げた城主は、小倉にとっては殿様であるので村民はその徳を慕い、怨念を慰めようと、家族ともども若宮神社に祭った。落城のもとになったのは笛の音であったので、いまでも社前では笛を吹かない。

（「舞鶴市史各説編」より）



講演会の後、現地案内をする高橋成計顧問  
平成 20 年 8 月 17 日 宇谷城にて

